
観光活性化プロジェクト
WAKUWAKUやまのうちの取組事例

2018年7月3日

八十二銀行

目次

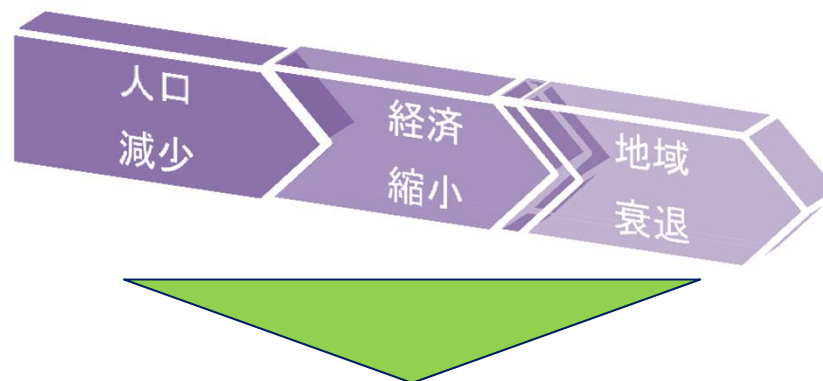
《観光活性化プロジェクト (株)WAKUWAKUやまのうちの取組事例》

1. 目的
 2. 経緯
 3. 山ノ内町の概要
 4. 活性化の方向性と事業スキーム
 5. 変化・効果
 6. ポイント(転機)・課題
-

1. 目的

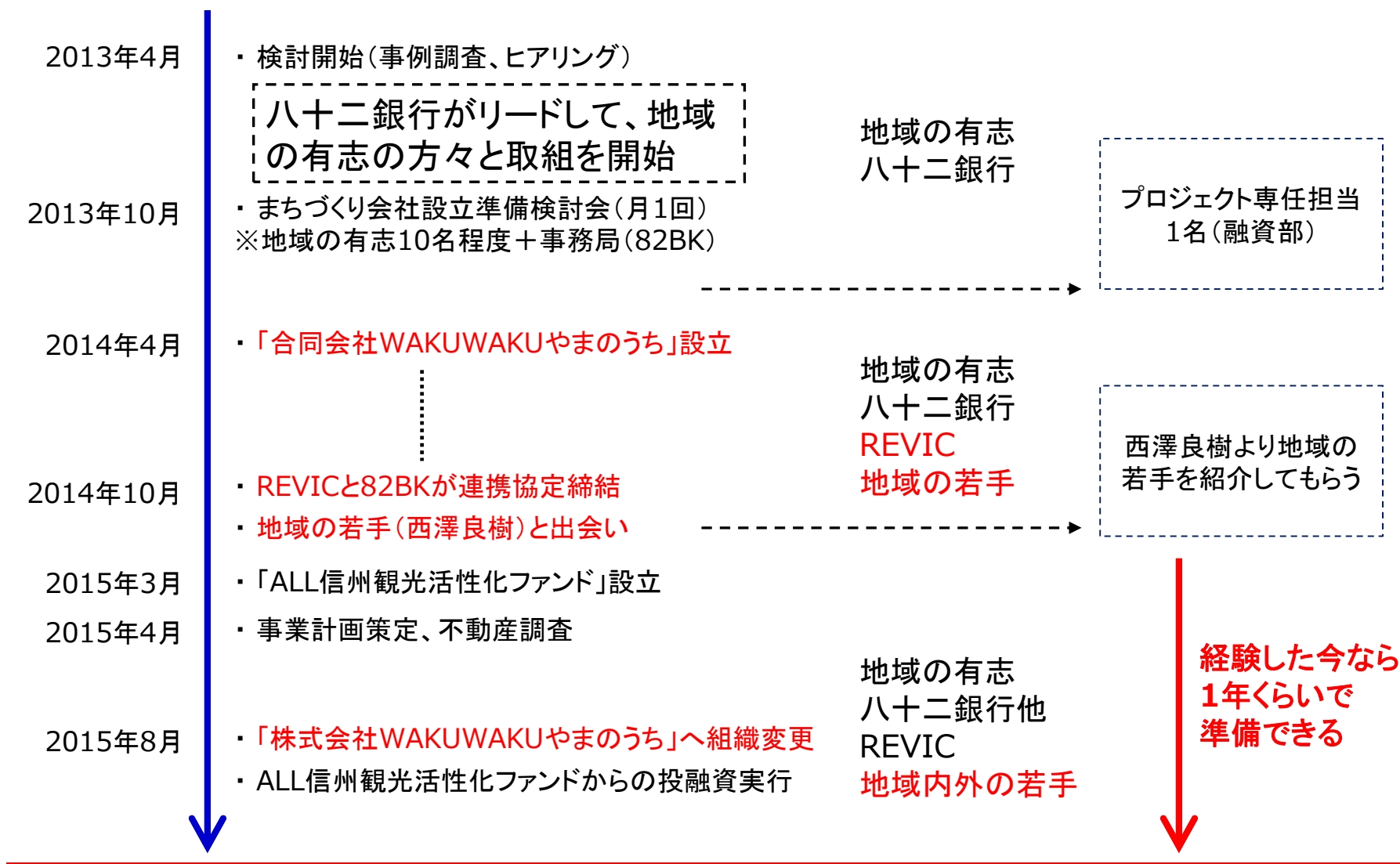
地方銀行として当行の役割を果たす＝地域活力を創造する！

- 地域金融機関のビジネスモデルに対する危機感(取引先減少等)。
- 地域金融機関にとって地域経済の活性化は不可欠。
- 地域経済の活性化には「個」の支援では限界、「面」の支援が必要。
- なぜ観光？→長野県において観光産業は重要な地域産業である。



- キーワードは面的再生、面的活性化。
- コーディネーター(調整役)として能動的に地域に関与する。

2. 経緯 ～地域の若手との出会いが転機となる～



3. 山ノ内町の概要

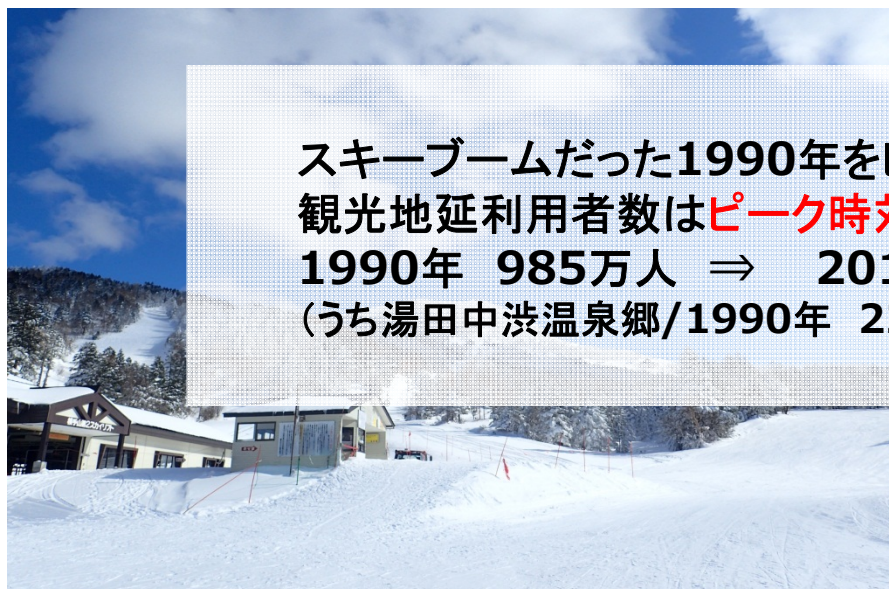
山ノ内町は、湯田中渋温泉郷、志賀高原、北志賀高原からなる県内有数の観光地として知られる。



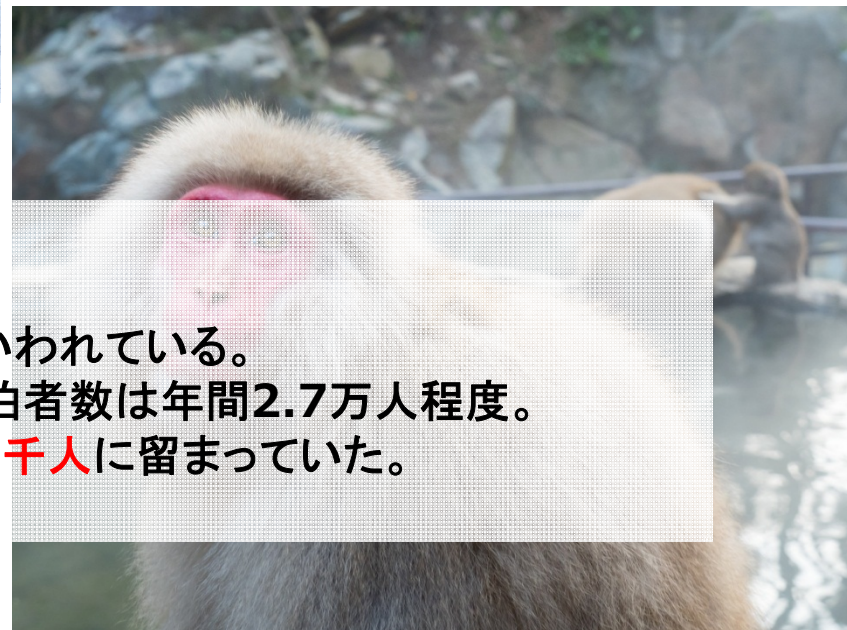
湯田中渋温泉郷：9つの温泉群

湯田中温泉、新湯田中温泉、星川温泉、穂波温泉、安代温泉、渋温泉、角間温泉、上林温泉、地獄谷温泉

3. 山ノ内町の概要



スキーブームだった1990年をピークに観光客は減少。
観光地延利用者数は**ピーク時対比 46%**
1990年 985万人 ⇒ 2014年 459万人
(うち湯田中渋温泉郷/1990年 223万人 ⇒ 2014年 121万人)



地獄谷野猿公苑には、
年間約8万人(2015年)の
外国人観光客が訪れているといわれている。
山ノ内町全体での外国人延宿泊者数は年間2.7万人程度。
うち**湯田中渋温泉郷**では**1万数千人**に留まっていた。

4. 活性化の方向性と事業スキーム

➤ 活性化の方向性(ファンド設立の目的)

- ✓ 賑わいがはじまるきっかけづくり(インバウンド滞在環境の整備など)
- ✓ リスクマネーの供給による創業支援等新陳代謝が始まるきっかけづくり
- ✓ 経営者人材(雇用主たる)の育成と自立に向けたサポート

(1)まちづくり

- ・温泉街の遊休物件をリノベーションし、インバウンド向けの滞在環境を整備

(2)ひとづくり

- ・将来にわたっての事業主体となる若手人材を発掘、業務を通して育成

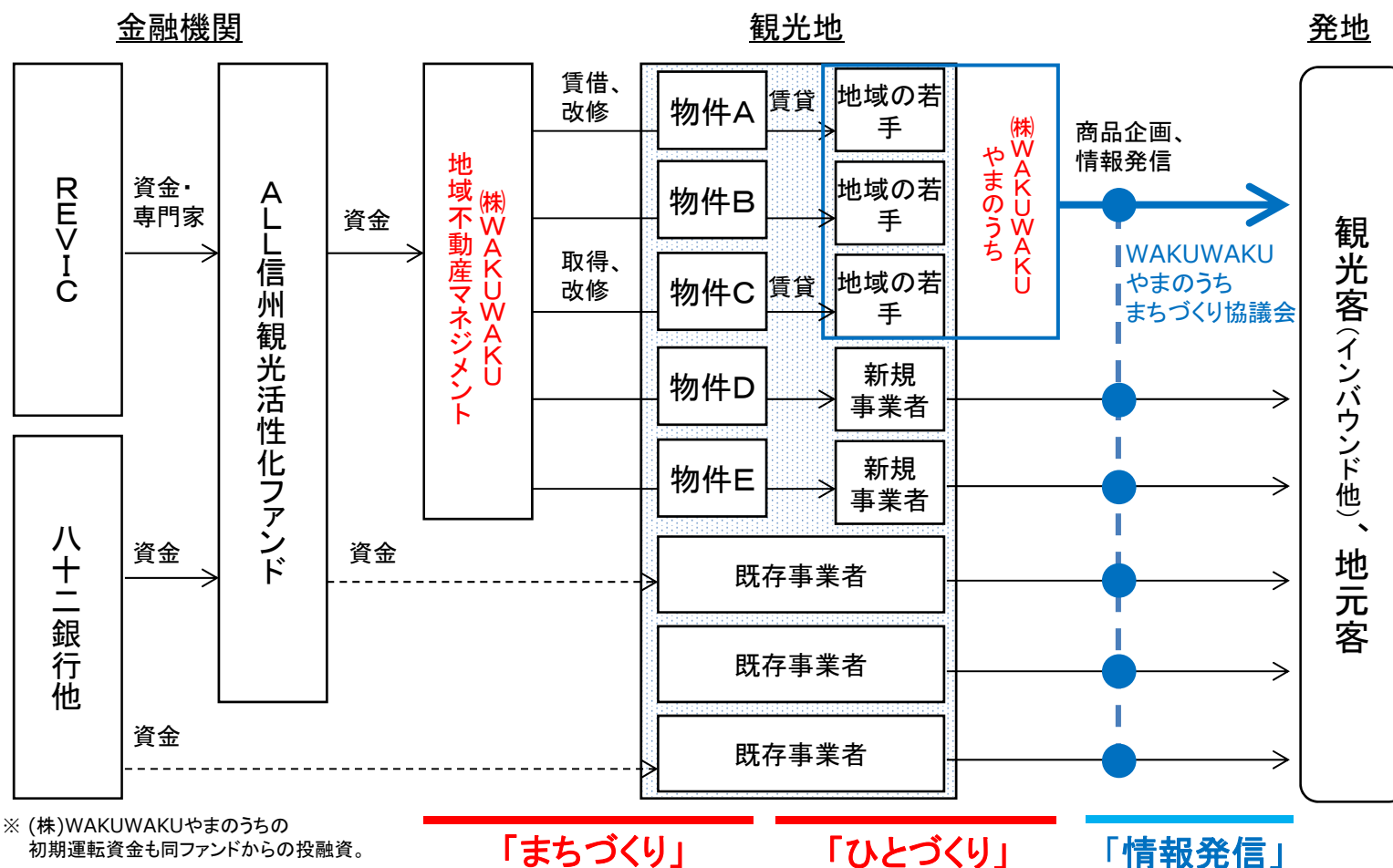
(3)情報発信

- ・WAKUWAKUやまのうちまちづくり協議会を設置、地域関係者と協働を推進
-

事業スキーム

- 本取組の主体は、直営店舗の運営及びDMOとしての情報発信等を行う「WAKUWAKUやまのうち」と、未活用物件の取得・改修／賃貸等を行う「WAKUWAKU地域不動産マネジメント」からなる。

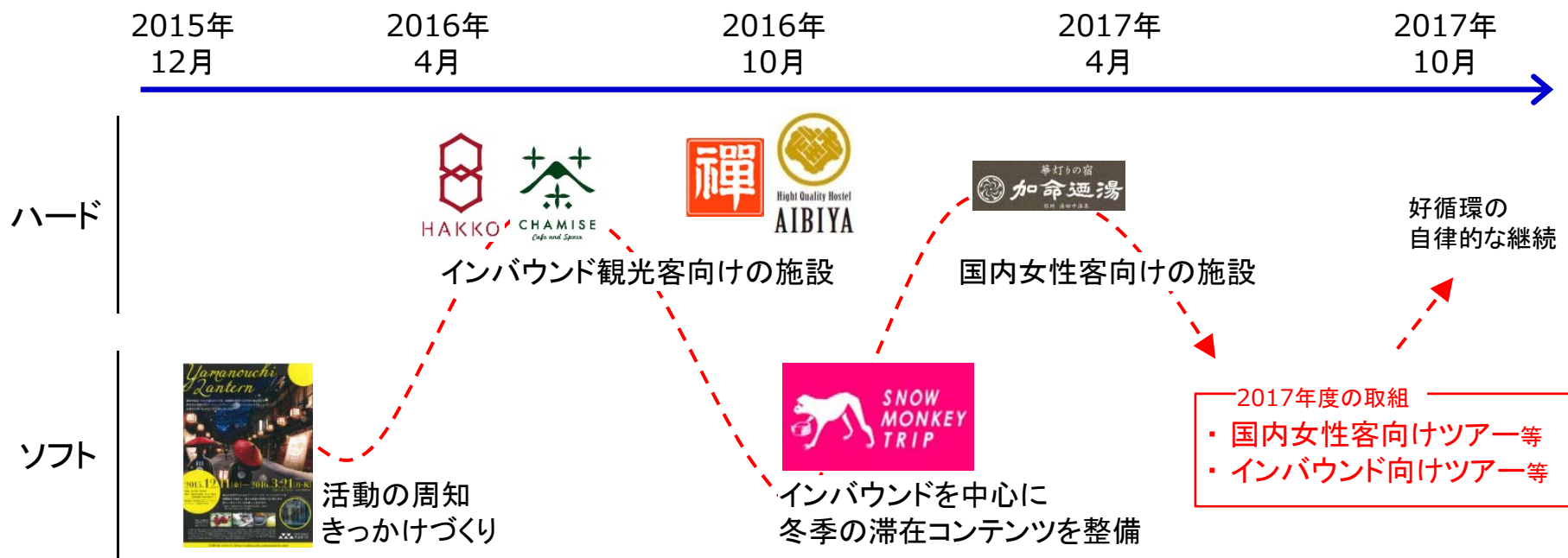
取組の全体像



※ (株)WAKUWAKUやまのうちの初期運転資金も同ファンドからの投融資。

ハードとソフトのスパイラル

■地域の状況を踏まえて、ハードとソフトの展開を構成し、戦略的に実行していくことで、自律的な観光活性化を目指す。



(1)まちづくり 遊休物件のリノベーション

- 旧青果店や旧洋品店、旅館などの遊休物件を活用し、地域の文化などを踏まえたリノベーションによって、必要な機能を補完する店舗をオープンした。



旧精肉青果店



ビアバー&レストラン



地元食材 × 発酵文化



旧洋品店



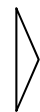
カフェ&スペース



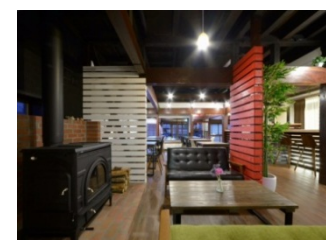
‘お茶’のメニュー



旧旅館



ホステル

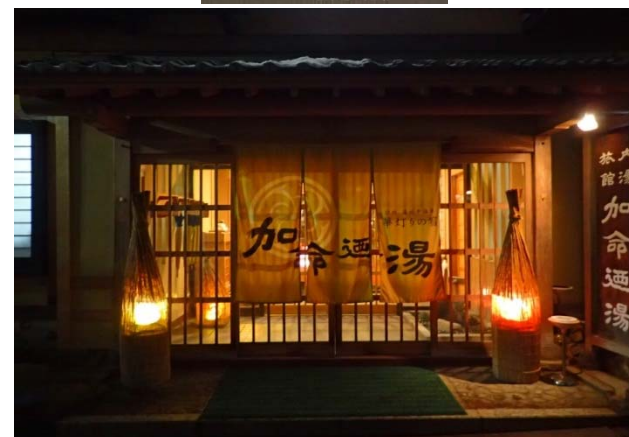


外部事業者へ賃貸:ZEN hostel



外部事業者への賃貸:加命の湯

(1) まちづくり 遊休物件のリノベーション



(1)まちづくり 月例のまちづくり委員会(兼 協議会)

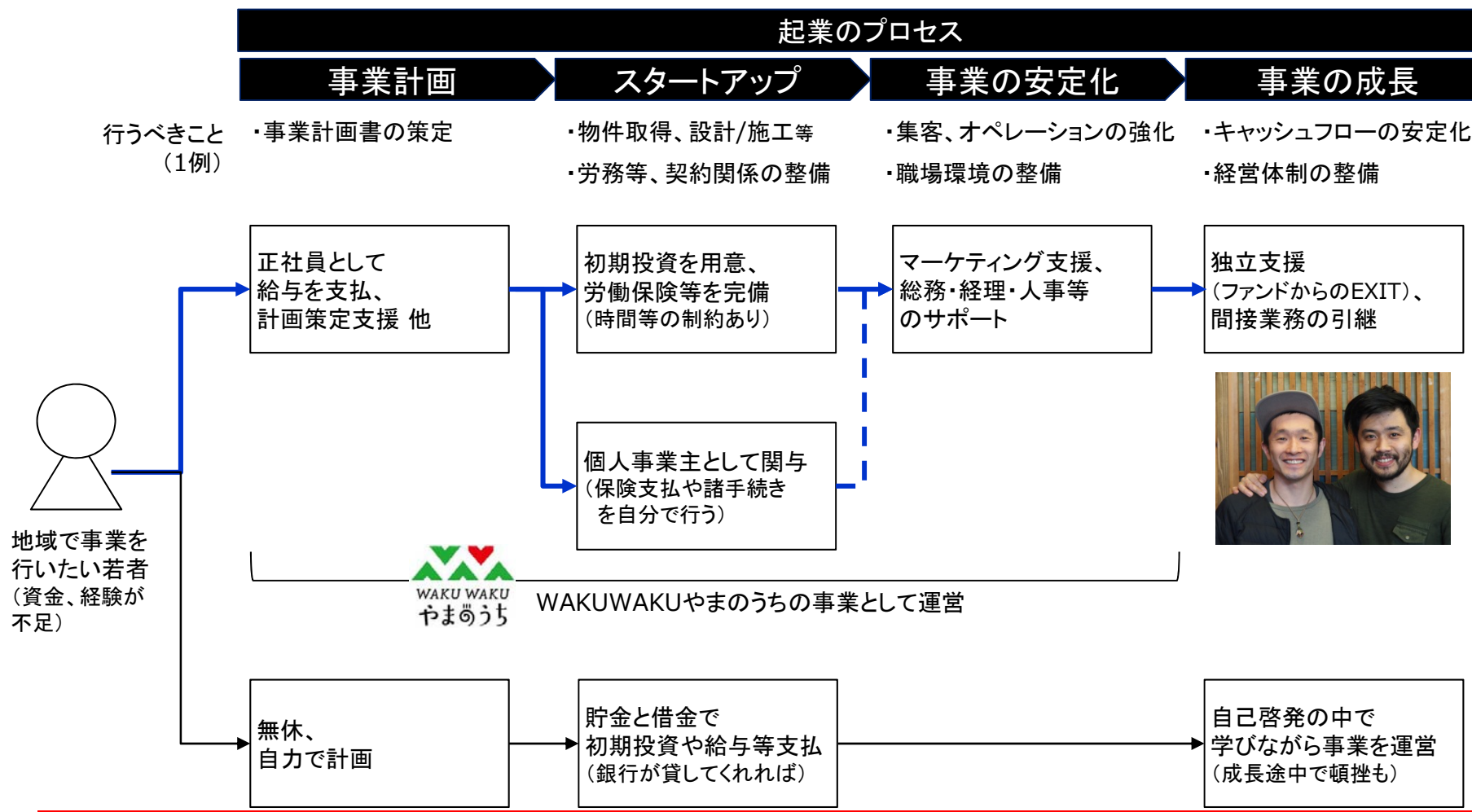
- 月に1回の「まちづくり委員会」を開催し、地域の方々や専門家の意見を聞きながら、店舗のオープンに向けた作業を進めた。



参加者：旅館の社長・女将、不動産屋、地銀支店長、地元事業者、農家、建築士、地元若手 他

(2)ひとづくり 地域を支える経営者人材(雇用主)の育成

- WAKUWAKUやまのうちは、将来の地域の担い手を育てるため、起業のプロセスの初期段階を内部の事業として行い、事業の成長フェーズでの独立も支援するスタンスで運営している。



(2)ひとづくり 若手人材が事業責任者となって運営している



(株)WAKUWAKUやまのうち
取締役 飲食事業部長
君島登茂樹(30)
妻: 祐三子



(株)WAKUWAKUやまのうち
取締役 宿泊事業部長
西澤良樹(31)
妻: 聖美(ソンミ)

(2)ひとづくり 経営会議は、若手人材の学びの場でもある

内部ミーティングの様子



Copyright © WAKUWAKUやまのうち All Rights Reserved.

(3) 情報発信 活動の周知、きっかけづくり

YAMANOUCHI LANTERN

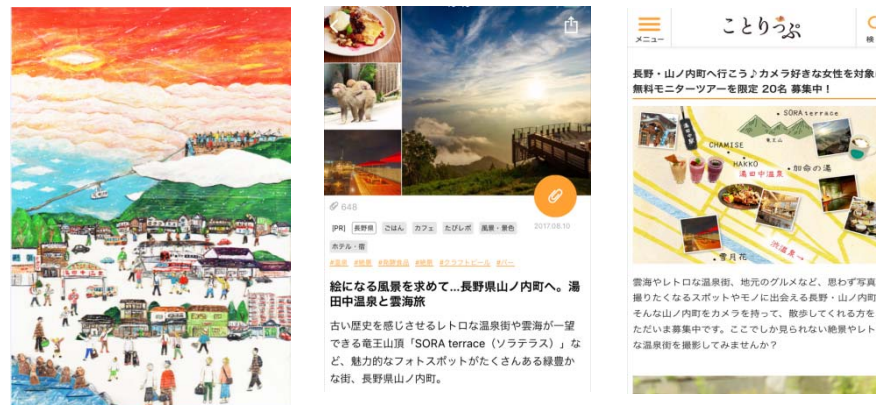


※ 観光庁「地域資源を活用した観光地魅力創造事業」を活用

(3) 情報発信



WEBマーケティングによる検証



グリーンシーズンのツアー企画



外交官のモニターツアー



個人旅行向けパッケージツアー販売開始

5. 変化・効果



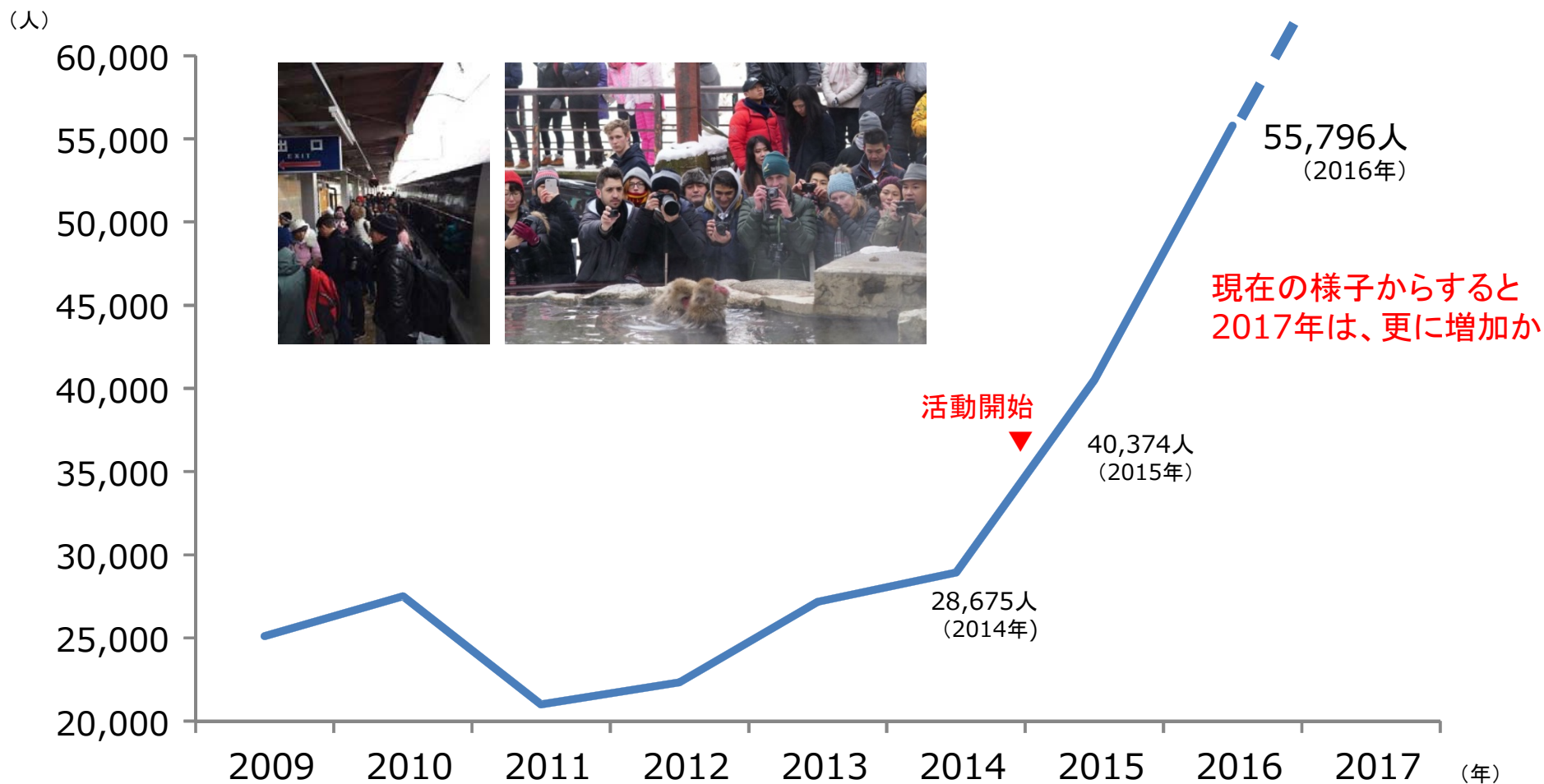
まだまだ『成果』といえる段階ではないが、
『成長と自立』への手応えを感じている



外国人延宿泊者数の増加

➤ 長野県の統計によると、山ノ内町の外国人延べ宿泊者は、伸びている。

※ 長野県や町がスノーモンキーのプロモーションを強化したことなども影響している。



(出典:長野県 外国人延宿泊者数調査)

6. ポイント(転機)・課題

➤ ポイント(転機)

- ✓ 地域に入り込み、地域のことをより深く知ること
- ✓ 若手人材との出会いから、若手人材のネットワークを拡げたこと
- ✓ 起業や事業を展開したい若手人材の意向と覚悟を尊重すること



彼らは成長、自立しつつある。
彼らに続く、次の『ひとづくり』
について検討中

➤ 課題

- ✓ 銀行にもまだ十分な知見とノウハウが蓄積されていない(人材育成)
- ✓ 地方に人材を呼び込み、マッチングするプラットフォームがない

ご清聴ありがとうございました。

私たちも、まだまだこれからです。
是非、湯田中温泉にお越してください。

